

# 心を寄せて～難民とともに～



難民を守る。難民を支える。  
国連UNHCR協会

第2号-2024年7月発行

## — はじめに～世界難民の日を終えて～

2024年の世界難民の日も、日本各地で難民支援の共感と支援の輪を広げるさまざまなイベントが行われました。人道危機が過去最大に拡大している世界情勢において、とても大きな意味があります。

そのなかで6月20日を中心に、日本各地のモニュメントが平和を祈り、UNHCRブルーにライトアップされました。その数は過去最高の59か所にのぼりましたが、仏教界への皆様方には、以下の寺院の方々にご協力をいただきました。

- ・大船観音寺（神奈川・鎌倉）
- ・身延山久遠寺 三門（山梨・南巨摩郡）
- ・東寺 五重塔（京都）
- ・上寺山餘慶寺（岡山・瀬戸内）
- ・備中国分寺五重塔（岡山・総社）

（順不同・敬称略）

ご参拝された方、SNSやWebでこの灯りをご覧になった方々にとって、平和を祈り、難民や国内避難民として困難に立ち向かっている人々に心を寄せる機会が数多く生まれましたと推察いたします。

この場を借りて、深く御礼申し上げます。

また、このライトアップにご関心をお持ちの皆様方は、いつでも担当までご連絡いただければ幸いです。

2024年の世界難民の日について  
詳しくはこちら⇒



## 6月20日「世界難民の日」日本がUNHCRブルーに染まります！

### ブルーライトアップ実施場所（予定）

- ① 札幌市時計台（札幌市）
- ② 札幌市資料館（札幌市）
- ③ 札幌駅前通り地下広場（チカホ）（札幌市）
- ④ 奇跡の一本松（陸前高田市）
- ⑤ 仙台スカイキャンドル（仙台市）
- ⑥ 会津若松城（鶴ヶ城）（会津若松市）
- ⑦ 水戸芸術館タワー（水戸市）
- ⑧ 那須ハイランドパーク カルセル（那須郡）
- ⑨ さいたまスーパーアリーナ（さいたま市）
- ⑩ 東京都庁第一本庁舎（新宿区）
- ⑪ 横田川橋梁（墨田区）
- ⑫ 東京スカイツリー（墨田区）
- ⑬ NTTドコモ代々木ビル（渋谷区）
- ⑭ 東京ドーム（外周部ヤキ/22ゲート広場ビジョン上）（文京区）
- ⑮ 文京シックセンター（文京区）
- ⑯ 旧国立駅舎（墨田市）
- ⑰ 株式会社BINGOショールーム（千代田区）
- ⑱ タワーホール船堀（江戸川区）
- ⑲ 中野区新庁舎（中野区）
- ⑳ 横浜市庁舎（横浜市）
- ㉑ 大船観音寺（鎌倉市）
- ㉒ 神奈川県庁本庁舎（横浜市）
- ㉓ 横浜マリントワー（横浜市）



あなたの周りのブルーを撮影してSNSでシェアしよう  
#難民とともに

詳しくはUNHCR駐日事務所のウェブサイトから



- ① インテックビル（タワー111）（富士市）
- ② 入道の港 教養ムゼウム（教員市）
- ③ 富士山レーダードーム館（富士吉田市）
- ④ 身延山久遠寺 三門（南巨摩郡）
- ⑤ 杉原千代子記念館（命のビザ）モニュメント（岐阜・八百津町）
- ⑥ 静岡市役所本館（静岡市）
- ⑦ ツインアーチ138（一宮市）
- ⑧ 豊田大橋（豊田市）
- ⑨ 豊田スタジアム（豊田市）
- ⑩ 東寺 五重塔（京都市）
- ⑪ 関西テレビ放送株式会社本社アトリウム（大阪市）
- ⑫ 天保山大観音堂（大阪市）
- ⑬ 明石海峡大橋（神戸市/淡路市）
- ⑭ 神戸ハーバーランドUmieモザイク大観音堂（神戸市）
- ⑮ 和歌山城ホール（和歌山市）
- ⑯ 和歌山市堀川周辺（中橋、京橋、寄合橋）（和歌山市）
- ⑰ 岡山城（岡山市）
- ⑱ 岡山村田製作所（瀬戸内市）
- ⑲ 備中国分寺（備前市）
- ⑳ 上寺山餘慶寺（瀬戸内市）
- ㉑ 日本一のだがし売場（瀬戸内市）
- ㉒ 備中国分寺五重塔（総社市）
- ㉓ 備前宝松城（松江市）
- ㉔ 松江市役所新庁舎（松江市）
- ㉕ 山陰同済銀行本店（松江市）
- ㉖ TSKさんいん中央テレビ（本社）（松江市）
- ㉗ NHK松江放送局（松江市）
- ㉘ オーヴィジョン海峽ゆめタワー（下関市）
- ㉙ 高知城（高知市）
- ㉚ 稲佐山山頂電波塔（長崎市）
- ㉛ 鍛冶橋（長崎市）
- ㉜ 女神大橋（長崎市）
- ㉝ JFN新大村駅前公園モニュメント（大村市）
- ㉞ 大村公園（大村市）
- ㉟ 熊本城天守閣（熊本市）

\*予定が変更となる場合があります。あらかじめご了承ください

©UNHCR駐日事務所



UNHCRグローバル・トレンドズ・レポート2023

## — 世界の難民情勢

紛争や迫害による世界の強制移動の数は、2024年5月末の時点で、**1億2千万人以上に達し、12年連続で増加してしまいました。**全体数が4000万人以下だった**2011年の3倍以上**にまで膨れ上がっています。

また、**難民、国内避難民の40%が18歳未満の子どもであり、若い世代の今と未来が脅かされています。**

難民の主な出身国は、アフガニスタン、シリア、ベネズエラ、シリア、南スーダンと73%が5カ国に集中している現状があり、一方で難民の主な受け入れ国は、イラン、トルコ、コロンビア、ドイツ、パキスタンとなり、39%はこの5カ国に集中しています。

2023年はさらに、スーダン、アルメニア、ガザ等の人道危機が加わって長期化しており、メディアにも取り上げられ

ているように、その状況は過酷さを極めており、悲劇と憎しみの連鎖を断つためにも、世界中からの支援が必要とされています。

一方で、故郷を追われていた610万人の人々が帰還できていることなど、希望の光も確実にそこには見えています。より一層、平和を希求する世界中の団結が求められています。

ただ、気候変動の影響を受けた強制移動の課題も年々大きなものになってきています。今年に入っても、3～4月にかけて、エルニーニョ現象に関連した異常な豪雨が東アフリカ全域に降り注ぎ、4～5月にかけてはブラジル南部に地域史上最大規模の大雨が降り注ぎ、5月にはアフガニスタン北部、7月には同様にカブール州等中部・東部が大雨に見舞われ、各地で壮絶な大洪水が起き、数えきれない人々が被災し、住み慣れた故郷を追われ、多くの人々が死傷しています。この気候変動に対しても対策が急がれています。

# 一 難民選手団の活躍

今年開催のパリ2024オリンピック競技大会およびパリ2024パラリンピック競技大会では、前回の東京大会に続き「難民選手団」が活躍します。スポーツは単なる”試合”ではない。国境をこえて、人と人をつなぐ力があります。その象徴が「難民選手団」です。紛争や迫害により故郷を追われた難民アスリートによって構成され、パリ大会では、オリンピック難民選手団は37人、パラリンピック難民選手団は8人が出場し、共に最多となります。

UNHCRは、国際オリンピック委員会（IOC）、国際パラリンピック委員会（IPC）と連携し、さまざまな困難に直面しながらも夢に向かってトレーニングに励んできた難民アスリートをサポートしています。難民支援の現場において、スポーツは単なる余暇以上の大きな意味を持っています。時には人を癒し、希望となり、未来を切り拓く力となっています。今回パリ大会に出場するアスリートは、想像を絶する困難を乗り越えて、競技の場に立っています。その勇姿で世界中に勇気を届ける難民選手団に声援をお願いいたします。

スポーツと難民について（難民選手団についても記載）詳しくはこちら⇒



# 一 世界各地の難民支援の現場より

## 【ウクライナ】

2022年2月からつづくウクライナへの大規模な侵攻開始から2年以上が経つ今も、人々は激しい攻撃によって生活を打ち砕かれ、ウクライナ国内外で避難を強いられています。ウクライナ国外に逃れる難民は2024年6月現在で655万人以上に、また同4月現在で、354万人以上が国内に避難を強いられています。そして同7月、キーウ、クリヴィー・リフ、ドニプロ、ポクロフスクの各地で、小児病院を含む組織的な攻撃があったことをニュースでご覧になったかもしれません。すでに多くの人々の死亡が確認されており、その数はさらに増えている状況です。

UNHCRとパートナー機関はすでに、家やアパートが被害を受けた多くの人々に緊急シェルター資材を提供して対応しています。また、被災した人々にとって必要な心理社会的支援も継続して行っています。



2024年7月ミサイル攻撃を受けたキーウの様子 ©OCHA

## 【スーダン】

2023年4月にスーダンで勃発した紛争は今も続き激しさを増しており、2024年7月の段階で、1000万人以上が国内外に避難を強いられ、スーダン全土で多くの人々が緊急性の高い食料不安に陥る事態となっています。紛争だけでなく、洪水等の自然災害、疾病の発生といった危機にさらされ、多くの人々が苦しんでいるこの地域の危機には関心が集まりづらく、「忘れられた危機」として、恒常的に資金不足に陥っています。そのなかでもUNHCRとパートナー機関は支援活動にあたっていますが、危険度も高く、困難を極めております。



チャド国境に到着したスーダン難民の列。© UNHCR/Colin Delfosse

# 一 ご協力のお願いと窓口について

伝統仏教界の皆様方には、長きにわたりご協力をいただいておりますが、人道危機が拡大しているなかで、ぜひ今一度、難民支援の御力添えをいただければ幸いです。

皆様方の御力は、世界各地の難民支援の現場で、緊急的に命を守る支援だけでなく、避難した先で人権を守り、教育や就労などを支え、未来を守る大きな力になります。皆様方のさらなる御力添えを、何卒よろしくお願い申し上げます。ご不明な点やご要望など、ぜひいつでも担当までお問い合わせくださいませ。



UNHCRはアフガニスタン北東部で洪水の被害を受けた村民を支援している © UNHCR/Wahid Ahmad Enayat

【お問い合わせ先】

特定非営利活動法人 国連UNHCR協会 広報・啓発事業担当：天沼 耕平

TEL：03-3499-2451 Mobile：070-3869-1763

E-Mail：amanuma@japanforunhcr.org

最新情報を「心を寄せて」特設Webページに随時掲載しておりますので、ぜひご覧くださいませ。⇒⇒⇒

